

# 大学院ニュースレター

## 久留米大学大学院医学研究科

第95号 / 2020年6月25日発行

編集 / 医学研究科長

### 『出会い』

小児科学講座 教授 古賀 靖敏

人生の中で「出会い」が如何に大切か、退任が間近になった今、つくづく感じる。研修医一年目、小児病棟でミトコンドリア病患者の死亡に立ち会った。医学が発達した現代でもこんなにみじめな病気がある事をはじめて知った。大学院医学研究科に進み、当時の名物教授である小児科山下文雄主任教授のもとで指導を受けることになった。当時、山下教授は、厚生労働省研究班の原因不明の小児難病「Reye 症候群」の班長で、その病態解明の研究が始まったばかりであった。Reye 症候群は、肝臓や脳のミトコンドリア機能不全が主因と考えられていた難病である。そのころ、マレーシアで原因不明の Reye 症候群が多発しているとの情報があり、私も現地調査の一員としてマレーシア国立大学に向かった。インドマライ半島では、民間薬としてのマルゴサ油が万能薬として使用されていたが、小児でこの油を使用した方で Reye 症候群が多発したとされていた。私はその油をビール瓶に詰め研究室に持ち帰った。そして、このマルゴサ油のミトコンドリア機能障害の研究を行う事になった。山下教授には、当時西日本で一台しかないと言われる高価な解析機器を揃えて頂いた。班研究の成果報告も差し迫っていたため、私は臨床の大学院生として2年間の研究生活を小児科研究室で、先輩方の手ほどきを受けながら昼夜問わず自分なりに頑張った。幸い学位論文が日本先天代謝異常学会の最優秀論文賞を受賞し、小児分野では最高の英文誌に採択、そのご褒美としてヨーロッパ先天代謝異常学会で招待講演する栄誉を受けた。

また、それらの研究内容が認められ、当時ミトコンドリア病の国内研究のメッカであった国立精神神経センターの埜中征哉部長に請われ、ナショナルセンターに異動した。おりしもミトコンドリア病研究

の創成期であり、埜中先生と二人三脚で出した研究論文が面白いように採択された。2年間で10本程度の論文を量産し、N Eng J Med、Natureをはじめ世界トップジャーナルに成果を発表できた。その中の論文投稿がきっかけとなり、コロンビア大学の Prof. DiMauro から国際電話があった。

この電話がきっかけとなり、私は世界のミトコンドリア病研究の最先端研究室に留学した。留学に先立ち、東京大学神経内科の先生の強力な推薦で、上原記念生命科学財団から多額の補助金を頂いた。留学先には、世界中から優秀な国費留学生が集った。私はコロンビア大学神経内科研究室ですべての留学生の研究教育係となり、世界中に研究者の人脈が出来た。また、コロンビア大学教授に米国における財団面接の指導を受け、日本人として初めて New York Academy of Medicine の David Warfield Award を受賞し、コロンビア大学の准教授に昇任した。米国の学会に参加した際、私以外で唯一の日本人参加者と知り合った。帰国後、その先生とともに、日本ミトコンドリア研究会を立ち上げた。今の日本ミトコンドリア学会の前進であり、今年で20年目を迎える。私は学会理事長を8年、また、アジアミトコンドリア学会理事長を3年間勤め、同時に Global Mitochondria Consortium のアジア唯一の理事も務めている。今までに多くの先輩方にご指導頂き、また、国内・国際的な恩師との貴重な出会いがあって、今の自分があるとしみじみと感じる。

大学院生には、今後経験されるであろうたくさん「出会い」を是非大切にして、大学院という絶好の研究の機会を、実り多き人生のスタートにしていたきたい。

## 『Yes, we have no bananas.』

退官する教員への執筆依頼は恒例とのこと。バイオ統計実務家(Biostatistician)としての遍歴を大学院生に語るチャンスを頂いたことに感謝する。

1978年から2001年まで23年間、アメリカ各地(WA, CT, HI, NY)に在住した。バイオ統計学との関わりは1984年Yale大学のBiostatistics MPH課程への入学が起点で、1990年のPh.D取得でキャリアをスタートさせた。卒業後は有名大学で研究者になるのが唯一の道だと信じ込んでいた。卒論の最終審査も無事突破した頃、University of Washingtonの大学院(Department of Biostatistics)に新規採用ポストの募集があり急いで願書を提出した。しかし、依頼していた推薦状1通が締切に間に合わず、後日願書は審査対象外と知らされた。

博士課程修了の道には高いハードルが用意されている。2年間の必修単位取得後、“comps”(comprehensive examination)と呼ばれる1週間に渡る総合試験があり、compsをパスして初めてPh.D candidateとして卒業研究の開始が許される。指導教授から卒論テーマをもらい、後は自力で研究するのがノーム(norm)で、卒業時には入学生の半分が振り落とされていた。そんな訳で若い学者の卵の自信とプライドが、1通の推薦状で崩れ落ちた。

出鼻を挫かれた矢先、Cornell大学精神科でバイオ統計家を探しているという情報があり、直ぐに面接に出かけた。当時Associate Chairman of ResearchだったDr. Gerald L. Klermanが面接に出てきて、最初に「何時から働けるか？」と聞かれた。卒業式はまだ1か月以上先だったがとっさに「来週からOK」と言ってしまった。GL Klermanと疫学者で妻のM. Weissmanは著明な学者で共にYale大学にも在籍していたことがあり、話が早く決まったのだろう。Yale大学の先生方は「データ解析は(簡単だから)さっさと済ませ、Cornellでもバイオ統計の研究を続けなさい」とアドバイスしてくれた。正直なところアルバイト気分で初めた仕事だが、このアドバイスが私のキャリアに大きな影響を与えた。

簡単なはずのデータ解析が全く出来なかった。理論は臨床データ解析方法に関するドメイン選択と統

## バイオ統計センター 教授 角間 辰之

計学的妥当性についての知識を与えてくれたが、そもそもmedical researcher達と上手くコミュニケーションを取れなかった私は、理論だけでは臨床データ解析が出来ないことを思い知らされ、臨床データの統計解析にのめり込んでいった。Cornell大学では、1994年に新進気鋭のDr. George S. Alexopoulos等がNIMHの大型研究費で設立したThe Weill Cornell Institute of Geriatric Psychiatry(正確には1992年、前身となるSpecialized Mental Health Clinical Research Centerの採択がスタート)の立ち上げメンバーとしてバイオ統計部門のdirectorを任された。George(上司をジョージと呼ばないと同僚として仕事ができなかった)から臨床データ解析に対する臨床家の視点を教わり、臨床と統計のtwo-way communicationの重要性を10年間体験した。

2001年に帰国、平成15年度文部科学省人材育成事業採択を受け、2005年久留米大学バイオ統計センターに着任した。Initiatorで初代所長永田見生先生のリーダーシップのもと、九州大学から招聘された柳川堯先生が理論、角間が応用と2本柱を建て、バイオ統計学専門教育・研究を始め、医学・医療分野の研究支援、大学生・大学院生の統計教育と統計面の研究支援を精一杯やってきた。

Cornell大学で10年間、久留米大学で15年間、様々なデータ解析の仕事をやらせて頂いたが、一貫したポリシーを持って仕事をしてきた。それは、例えるなら“Yes, we have no bananas”のポリシー。文法的には“No, we have no bananas”だ。真意は如何なるデータ解析の依頼にもNoとは言わない。臨床データ解析は様々な理由から上手くいかない時もあるが、統計相談には必ずYesから始める。ITCの急速な進歩に伴って出現したビックデータとAI等の新しいデータ解析手法が年々変革されている状況で、何時までYESと言いつづけられるか私のチャレンジは続く。

### (Reference)

[https://en.wikipedia.org/wiki/Yes!\\_We\\_Have\\_No\\_Bananas](https://en.wikipedia.org/wiki/Yes!_We_Have_No_Bananas)



## ～NEWS～



### ◆大学院医学研究科 facebook をご利用下さい

2017年3月に大学院医学研究科の公式 facebook を立ち上げています。大学院生のみならず広く地域の方へ大学院の活動をお知らせしています。企画として「修了生インタビュー」や「在学生インタビュー」を実施し、修了生や在学生の生の声をお届けしていきます。院生にとっても、これから大学院を目指そうと考えている方にとっても、大変有意義な内容となっています。医学研究科ホームページやニュースレターでも配信していきますので、是非ご覧ください。今後、院生のみなさまにインタビューをご依頼することもございますが、何卒ご協力の程お願いいたします。

FB : <https://www.facebook.com/kurumeugsm/>



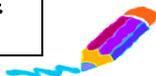
HP : <https://www.kurume-u.ac.jp/site/gmed/shosaiart753.html>



### ◆第6回研究発表会の日程が決定しました

主に博士課程を対象とした研究発表会が今年度も12月7日(月)・8日(火)に開催されます。エントリー受付期間は7月10日(金)～8月21日(金)です。ご自身の研究の進捗状況を把握し、客観的なフィードバックを得ることができる好機ととらえ、ふるってご参加ください。詳細が決まり次第、順次周知してまいりますので乞うご期待ください。

## 事務通信



### ◆令和2年度 学生定期健康診断について

下記の通り学生定期健康診断を実施します。例年、医学研究科の健康診断受診率が低い状況(昨年約64.2%)が続いております。健康診断の受診は、学校保健安全法、学則に定められた学生の義務です。必ず本学での受診もしくは、他医療機関等で受けられた健康診断結果を提出下さい。(社会人学生の方で、令和2年度中に勤務先で受診される方は、受診後速やかに健康診断結果の写しを保健管理センターに提出して下さい。また、本学の職員で職員定期健康診断を受診される方は、今回の健診を受ける必要はありません。但し、職員健診を受診しなかった場合は、証明書の提出が必要となります。)

健診期間 令和2年7月16日(木)、17日(金)、20日(月)、21日(火)  
 受付時間 15:00～18:30  
 場 所 筑水会館 1階  
 健診項目 身長、体重、血圧、内科診察(在学生・新入生)  
 胸部X線、尿検査、視力、聴力(新入生のみ)



## ◆ 注意事項 ◆

- ・当日は胸部X線撮影に適した無地のTシャツ着用してきてください。
- ・やむを得ない理由で健診期間中に受診できない場合は、保健管理センターへご相談ください。
- ・期間中に受診できない場合は、各自受診のうえ（自己負担）証明書を医学部教務課へ提出して下さい。

【問合せ先】久留米大学保健管理センター（医学部B棟1階）  
TEL (0942) 31-7690

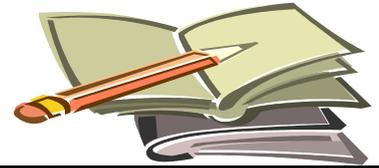
## ◆ 現住所が変更になったら・・・

現住所が変更になりましたら、必ず「学生現住所変更届」の提出が必要です。

なお、メールアドレスや電話番号が変更になった場合も、教務課までご連絡ください。

重要な書類がお手元に届かない場合がありますので、ご協力よろしくお願い致します。

（※「学生現住所変更届」は大学院HPよりダウンロード可）。



## ◆ 令和2年度 大学院セミナーシリーズ（特別講義） カリキュラムのお知らせ

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
泌尿器科学	6月25日（木） 18:00～19:30	基礎3号館1階 セミナー室	近藤 玄 先生 （京都大学ウイルス・再生医科学 研究所 総合生体プロセス分 野・教授）	マウスを用いて精子受精能 獲得現象を解き明かす
整形外科	7月9日（木） 16:00～17:30	基礎3号館1階 セミナー室	原 正文 先生 （医療法人社団 日晴会 久恒病 院・病院長）	野球肩について -野球中継 を医学的に観てみたい-
皮膚科学	9月17日（木） 18:00～19:30	基礎3号館1階 セミナー室	玉井 克人 先生 （大阪大学大学院医学系研究科 再生誘導医学寄附講座・教授）	皮膚幹細胞ニッチの発生お よび再生における末梢血間 葉系幹細胞の役割
神経精神医学	10月2日（金） 17:00～18:30	基礎3号館1階 セミナー室	中村 純 先生 （医療法人社団新光会 不知火ク リニック・一般社団法人 日本う つ病センター理事・産業メンタル ヘルスセンター長、産業医科大学 名誉教授）	産業医と精神科医との連携
分子生命科学研究所 （遺伝情報部門）	10月9日（金） 18:30～20:00	基礎3号館1階 セミナー室	沢村 達也 先生 （信州大学医学部分子病態学教 室・教授）	血管機能異常の探求から生 体防御機構を考える
小児科学	10月16日（金） 16:00～17:30	基礎3号館1階 セミナー室	田中 雅嗣 先生 （順天堂大学大学院・客員教授/ イムス三芳総合病院 臨床検査 科・部長）	世界の持久系アスリートの 全ゲノム塩基配列解析 Whole genome sequence analysis of Kenyan and Ethiopian endurance runners

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
病院病理部	10月19日(月) 18:00~19:30	基礎3号館1階 セミナー室	佐藤 之俊 先生 (北里大学医学部 呼吸器外科・ 主任教授)	肺癌診療と呼吸器細胞診の 展望
病理学	10月22日(木) 17:30~19:00	基礎3号館1階 セミナー室	味岡 洋一 先生 (新潟大学医学部 臨床病理学分 野・教授)	未定
内科学(呼吸器・神 経・膠原病内科部門)	11月27日(金) 17:00~18:30	基礎3号館1階 セミナー室	審良 静男 先生 (大阪大学 免疫学フロンティア 研究センター・特任教授)	自然免疫
先端イメージング研 究センター	未定	基礎3号館1階 セミナー室(予 定)	未定	未定
外科学(小児外科部 門)	未定	基礎3号館1階 セミナー室(予 定)	牛木 辰男 先生 (新潟大学・学長)	顕微解剖に関するトピック(未 定)
解剖学(顕微解剖・生 体形成部門)	未定	基礎3号館1階 セミナー室(予 定)	甲賀 大輔 先生 (旭川医科大学 解剖学講座顕微 解剖学分野・准教授)	未定
公衆衛生学	未定	基礎3号館1階 セミナー室(予 定)	矢野 晴美 先生 (国際医療福祉大学 大学院医学 研究科 公衆衛生学専攻・教授)	未定

※今後の予定を掲載しています。

開講日時・講義会場等の変更がある場合には変更後の情報、ならびに未定の日程については決定後、大学院医学研究科ホームページで情報提供いたします。

また、当該科目履修者は5回以上のセミナー出席およびレポートの提出をお願いいたします。  
レポートについては、各セミナー終了後1週間以内に、医学部事務部教務課までご提出ください。  
履修者以外の方も自由聴講が可能ですので、是非ご参加ください。

## 編集後記

早いもので新年度が始まり3ヶ月たちました。学生生活はいかがお過ごしでしょうか。本年度の大学院医学研究科には新入生修士課程31名、博士課程29名が入学され、新たな一步を踏み出されました。大学院事務担当も教務課：猿渡・林田、庶務課学位申請担当：服部・與那城でみなさまのサポートに努めさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。(林)

